

堀田芳子研究員による考察

はじめに

他の子育てセンターの仕事を初めて見学する機会をいただきました。当園でもよく話題となる先駆的な子育て支援を熱心に取り組まれ、出張保育もされているという長崎市、それも市内の園が協力し合って実績を上げているという、とても興味深い実地調査への参加でした。

今回は、長崎市地域子育て支援センターが主催する、小児科医の講演『楽しい子育て』を、またそれに伴ってお子さんの保育の様子も見せていただきました。募集期間も短かったという講演会には70名を越えるお母さん方が集まって、中央青年の家体育館という、私の園の5倍もあるような保育室で、先生方や子育てボランティアの皆さんが保育していました。

今は1園で保育園の先生方の協力のもとに事業をしている私には、規模の大きさに驚くと共に、地域の方々の期待に応えられてきた実績、チームワークに力強さを感じました。

長崎市の委託事業である長崎市地域子育て支援センターからは『アリスだより』が年11回、1万部発行され、市内の各施設に置かれ、「保育園からのメッセージ」と共に月の催しものの案内が誰にでも伝えられるようになっていきます。

* 遊ぼう曜日は2園では毎週金曜日、4園では隔週金曜日に2~3組の親子が同年齢のクラスに入って、一緒に遊び給食を食べて帰るといふ。

* 親子で遊ぼう会は、出張保育(10:00~12:00)、4か所の児童館(月1回)、市民会館、児童センターなどに出張して親子リズム遊びやうた、手遊び、季節の遊び、集団遊び、自由遊びを親子で楽しんでいる。4か所の児童館で同時進行で行ったり、月3回から5回の実施、多い時には100組近い親子が参加し、楽しんでいるという。

* 親子観劇会

* 子どもまつり

* 子育てセミナー 年5回開催

* 育児講演・相談

時には「ここははじめが大切」とわかりやすく伝えたり、お母さんや子どもたちの生活を温かく包み込むような話に、耳を澄ました2時間がとても短く感じられた講演。終了後に何人かのお母さん方のお話を伺う時間もいただきました。

事業へ親子で参加できる喜びや、心配ごとを話される声のなかで「専業主婦の良いところは、いつも子どものことに一生懸命なこと。私の母もそうだった」というお母さんの言葉に、『母親の存在』の大きさを改めて感じました。

子育てセンターの現場から

保育園の資源、ノウハウとはどのようなことがあるのだろうか、地域のお母さん方にはどのようなことが望まれ、生かされるのかを考えてみました。

* 保育園の遊び場や遊具、おもちゃ(物的面)

* 子どもの社会、子ども同士の関わり、会話(社会面)

- * 子どもの姿、発育や発達の姿(子どもの姿)
- * 子どもたちと関わり合う保育者の存在(人的面)
- * 子どもたちの好きないろいろな遊び(歌や絵本、運動、製作などの遊び)
- * さまざまな育ちをしていく子どもたちの成長、その関わり方(子どもの姿)
- * 保育者の積み重ね(子どもとの関わり方、その楽しさ、工夫や発見等の経験)
- * 子どもの食事、作り方、アイデアや工夫(食生活)
- * 子どもの怪我や健康、保健衛生などに関する情報(健康づくり)

など

利用者からは、次のような感想や意見を聞くことができました。

- ◇ 講座は参考になる話を聞いた上に、子どもと離れてホッとでき、リフレッシュもできて頑張ろうという気持ちになる
- ◇ 親も子どもも友達ができ、情報交換やお喋りしたり、遊べて気分転換できる
- ◇ いろいろな子どもたちと会話したり遊べたり、ありのままの姿を知ることができる
- ◇ 心配ごと、職員や仲間と相談や気軽に話しあうことができ、参考になる
- ◇ 保育者の子どもへの言葉掛けや関わり方が、とても参考になる
- ◇ 園庭開放、親子で遊ぼうに出かけることで、食事時間、睡眠時間と生活にリズムができた
り、メリハリが出てきた
- ◇ 親子で居心地よい場所で子どもも思い切り遊べ、成長が感じられる
- ◇ 同じ位の子どもを育てている人に会える
- ◇ 今、地域に流行の子どもの病気の情報や留意事項などは役に立つ
- ◇ 子ども向きの味付けや調理方法、工夫など勉強になる
- ◇ 試食会で皆と一緒にいいのか、よく食べ、嫌いなものも食べたりする など

園児と地域のお子さんたちが一緒に遊ぶ、別に保育室を設ける、職員が他の場所に出かけて保育するなど、地域の中でそれぞれの園で可能な子育て支援の方法が、計画、実行され、成果を上げている情報は大いに参考になります。子どもを連れて安心して出かけられる場所があって、子どもも遊べてお母さん同士も交流が出来たり、子どもから離れる時間など持てることは親子の生活の支えにもなっているという声に励まされたり、仕事の重要性を感じます。

が、そのような情報を必要としている人々に届いているのか、届いていても無関心なのか、難しい大きな課題があります。

子どもが仲間と遊びを楽しめる場所を

テレビやビデオに頼りがちな遊びであったり、親子 2 人だけの生活が多いという地域の子どもの『心身の健康な育ち』を願い、太陽の下で親子で伸び伸びと遊ぶこと、親子のリフレッシュの場に園庭を開放したところ、思いがけない発見もありました。

子どもが環境から学ぶ力、特に最近『子ども集団……多くの子どもたちと関わり中での育ち』の素晴らしさを痛感しています。

園庭開放時には、歩けるようになって転びながらも歩き回る子や、まだ這い這いで遊ぶ子、2歳3歳位のお子さんもお母さんに見守られながら、好きな遊びを楽しんでいます。そのうちに自ら次の遊びに挑戦し始め、遊びが伝承していることです。当たり前のことのように、お母さんや職員から誘われなくても、自分から手を伸ばす意欲は大切です。

園庭開放も終りの12時近くに10分間前後、皆で遊ぶ時間を持っています。「かけっこをしませんか？」と子どもたちを誘うと、以前は関心なく遠くで遊んでいた小さい子たちが、いつのまにか皆の仲間入りして、スタートラインに並んで一緒に参加し始めるのです。こんな発見などは、お母さんと大いに褒め、喜びあう時となり、お母さんもお父さんへ報告することの一つとか。

最近このようなお手紙を初めて頂き、驚きました。

「体が弱く生まれて、何もかも成長がのんびりだった子を園庭開放に連れていくのは勇気がいりました。この子には、広い園庭で思い切り遊ぶことが必要だし、友達から得ることができるだろうと、いざりをしてわが子を連れて行きました。それと同時期に引っ越しをして、家の中でも遊ぶことの出来るスペースを作りました。通い始めて2か月で、驚くほどの成長に、定期的に見ていただいている小児科の先生に『何か環境が変わりましたか』と聞かれて話をすると、『驚いたよ、もう先生とはさよならだよ』と笑顔で見送って下さいました。園庭に通うことで、わが子も、そして私自身も成長し変わることが出来たと思います。幸せな時間をありがとうございました」

園庭の方々を見ていると、親子は一心同体のようなのだとよく思います。その時、子どもが機嫌悪かったり緊張していると、お母さんの不安・緊張も伝わってきます。子どもが次第に元気になって遊べるようになると、お母さんもリラックス出来て、ゆとりが感じられてきます。又、お母さんが暗いような表情の時には子どもの心が荒れていたり、お母さんのそばから離れられなかったりします。

子どもたちは、遊びの中で他の子どもたちを知ったり、トラブルも経験していきます。トラブルを恐れず、子どもたちのあるがままの姿を受け入れながら、それがよい経験に繋がるような場であって欲しいと願っています。職員はもとより、よそのお母さん方との交流も生まれ、両親以外の人との交流、信頼関係も生まれるのです。そんな土壌を大切に作っていけるのも、保育園の資源によるものと思っています。その場に一緒にいて、お母さん方も子どもの成長している姿に気づいたり、温かく見守って欲しいと思っています。

子どもたちが遊べる場所、公園と違う自由に遊べる場所を、身近な保育園、幼稚園で園庭や保育室を開放することが可能ならば、お母さん方はもっと戸外に出かけやすくなるのではないのでしょうか。

またセンターとして、園庭に来られない人々に今、出来ることは何かを模索していくことも必要に思います。

そして、お母さん方にとって、毎日の三度の食事づくりも大きな関心事の一つです。成長している子どもの食事の作り方や、家族の健康な体づくりを考える食材のヒントや工夫などの情報提供は『家庭における食生活の大切さ』を考えるきっかけともなり、大いに生かしたい保育園の資源だと思っています。

おわりに

少子化が心配されている現在ですが、来園する地域のお母さん方には妊婦さんやお子さんが 2 人 3 人の方も多く、子どもの魅力やその関わりの楽しさなども伝えながら、実は職員も楽しませてもらっている日々かも知れません。

虐待されている子どもたちの多いことが報じられ、それも 3 歳未満時児が多く、痛ましさや無念さを感じ、見えない影に不安は消えません。

必要な人に必要な情報が届くように、心に少しでも留めてもらえるように努力しているようでも、なかなか姿は見えてきません。子育てする環境が乏しくなっている社会、地域の家庭に支援を広げていくためにも、一施設だけの問題ではなく、地域の人々と情報交換し、他の機関との連携、人材の発掘など、協力し合うことが、前進の必要条件だと考えています。

支援を必要としているかもしれない親子にたどりつけるように、私たちの仕事を毎日丁寧に積み重ねていくことが、輪を広げられるまずは第一歩だと思います。子育ての知識よりは、お母さん方に職員の経験などを話し合えるように努力し、今を大切にしていきたいと願っています。